

① 6/8～6/11 興福寺南円堂前休憩所にて、地元の伝統産業を広める為、奈良墨を体験するワークショップ「すみからすみまで墨のおはなし」を開催

② 興福寺（奈良市）国宝館ショップにて
錦光園の「香り墨 Asuka」の展示販売がスタート



過去のワークショップの風景



香り墨 Asuka

① ワークショップ「すみからすみまで墨のおはなし」@興福寺

奈良の伝統産業である「墨づくり」を営む墨工房「錦光園(きんこうえん)」が、古都奈良の象徴ともいえる興福寺の「地元の伝統産業を奈良に訪れる多くの方に発信していきたい」という趣旨に賛同し、奈良墨の魅力を伝えるワークショップ「すみからすみまで墨のおはなし」を興福寺南円堂前休憩所にて行います。期間は2023年6月8日(木)から11日(日)まで。同会場にて、墨の製造実演と見学、様々な墨の試墨、書道体験、にぎり墨の製作(有料)、墨の展示・販売を行います。沢山の方にお立ち寄りいただき、一人でも多くの方々に伝統の奈良墨の文化に触れていただけることを願っています。

【開催期間】

2023年6月8日(木)～11日(日) 10時～16時まで(にぎり墨制作の最終受付は15時50分)

【内容】

墨の製造実演と見学、様々な墨の試墨、書道体験、にぎり墨の製作(有料)、墨の展示・販売

【開催場所】

興福寺 南円堂前休憩所(旧・無料休憩所売店)

② 展示販売開始『香り墨 Asuka』@興福寺国宝館ショップ

また、2019年に販売を開始した錦光園の香り墨「Asuka」が、この度世界遺産・興福寺（奈良市）国宝館ショップにて販売されることとなりましたのでご案内いたします。奈良墨の歴史において、興福寺は大変重要な役割を担ってきました。奈良時代に藤原氏の氏寺として作られた興福寺の子院・二諦坊では、筆記や写経、春日版と言われる木版摺りの經典づくりのため、油煙墨を一手に製造していました。墨を磨って書く/描くという文化が薄れつつ時代となっていますが、この縁深い場所が新たな墨の文化を紡ぎきっかけをくださるのだと感じています。

『香り墨 Asuka』について

香り墨「Asuka」は、「書く」だけでなく、「見る」「香る」といった墨の魅力を楽しんでいただけるよう開発した油煙墨です。モチーフとなっている「伎楽面」は7世紀初めに中国の呉から伝わった日本最古の仮面舞踊劇「伎楽」で使用されるお面で、大仏開眼供養をはじめとした寺院の重要な法会に使われ、現在は奈良の正倉院に奈良を代表する宝物として大切に保管されています。錦光園は、日本の文化、歴史に深い関わりを持つ伎楽と組み合わせることで、墨を単なる筆記具に留まらず、見た目の美しさに加え、独特のかぐわしい香りなども楽しめる実用性のある美術工芸品を目指しました。極めて特殊な形状であるため、製造においては非常に困難を伴い、熟練の職人の製造技術をもって、何百回もの試作、製造工程の中での改善を要するものでした。

発売以来、国内外から大きな反響をいただき、奈良市のふるさと納税返礼品としても人気をいただいています。

2019年、奈良を代表する宝物である「伎楽面」をモチーフに、単なる筆記具に留まらず、美術工芸品としての見た目の美しさに加え、独特のかぐわしい香りなど様々な墨の魅力を体験できる墨として開発された油煙墨です。



写真：（上段左から）香り墨 Asuka 伎楽面～迦楼羅、香り墨 Asuka 伎楽面～力士、香り墨 Asuka 伎楽面～呉女、ASKA小冊子（下段左から）中坊竜堂、錦光園店舗、錦光園七代目墨匠・長野睦

【販売商品】

Asuka3種セット	10,692円(税込)
香り墨 Asuka 伎楽面～迦楼羅～	3,960円(税込)
香り墨 Asuka 伎楽面～力士～	3,960円(税込)
香り墨 Asuka 伎楽面～呉女～	3,960円(税込)

【販売場所】 興福寺国宝館ショップ（営業時間 9時～17時）

【製品の特徴】

* 迦楼羅は厄除け、力士は身体健全、呉女は女性の美を司る縁起物で、1つ1つのお面は個性的な特徴やエピソード溢れています。

* パッケージにはモチーフである伎楽面も保管されている奈良・正倉院より、器や楽器等、同じ宝物に装飾された「螺鈿」の輝きを再現した高級貼箱を採用。

* 奈良を代表する工芸士・古楽面作りの第一人者である中坊竜堂氏とのコラボレーション：墨の製造において最も重要な道具である生墨の形を整える専用の型は、奈良を代表する工芸士・古楽面作りの第一人者である中坊竜堂氏の協力を得て作られた特注品です。

* 国内外問わず、奈良の歴史や文化を知って頂くために、英訳付きの奈良墨の歴史、商品に纏わる説明や墨の磨り方等を紹介する小冊子も用意。

興福寺について

世界遺産・興福寺は平城遷都（710）にともない、現在の場所に移築され 1300 年の時を重ねています。

中世には大和一国を支配する権勢を誇りました。また文化・芸能・食の発展においても重要な役割を果たし、とくに能楽や清酒（醸造技法）の進歩に大きく貢献しました。

戦国時代になると衰退の兆しを示しますが、それでも 21,000 石という知行を維持し面目を保ちます。

しかし、幕末から明治維新時にかけての興福寺は神仏分離や廃仏毀釈の影響をうけ、伽藍の大半を失います。明治初年には無住（住職不在）、そんな逸話も残る苦難の時代でした。

現在の興福寺は、境内地約 2 万 5 千坪を有し、「天平の文化空間の再構成」を合言葉に享保（1717）の大火で失われた中金堂の再建（2018 年落慶）をはじめとし、仏像や堂塔の保存修理を精力的に行っています。今年度からは明治 33 年（1900）以来の五重塔修理にも着手いたします。

錦光園について

江戸時より代々 150 年以上、伝統を守り昔ながらの製法で「奈良墨」を一つ一つ手作りで作り続ける墨工房。明治時代、奈良でも由緒ある墨工房「古梅園」の職人であった長野亀吉が独立・創業し、錦光園として新たな歴史をスタートさせました。以来、奈良に伝わる伝統的な製法による墨作りを今日に至るまで続け、現在は六代目墨匠・長野墨延と七代目墨匠・長野睦が、その伝統を守り続けています。

自社の未来と同様に常に産地の未来を考え、国内外に日本の墨文化、書道や水墨画の素晴らしさを伝え、墨作りの産地を守る『墨守』として、15 年以上前に、工房内で一般向けに、墨に関する講義や製造の実演見学や、実際に参加者に墨を制作してもらう「にぎり墨体験」をスタートし、また 2022 年 11 月からは出張交通費、講師料無料で日本の 47 都道府県どこへでも伺い、墨の魅力と文化を伝えるワークショップ「すみからすみまで墨のおはなし」をスタートしています。工房での「にぎり墨体験」は、国内外含め年間 4,000 人以上が訪れる人気コンテンツの一つです。他にもインテリアとして喜ばれる「香り墨 Asuka」や「菓子木型墨」など、墨のもつ別の可能性を引き出す商品開発を始め、墨づくりに携わる職人を同業者の立場から取材し紹介する「奈良墨のひと」など、様々な墨や産地の普及活動を行っています。

「すみからすみまで墨のおはなし」実績 <https://kinkoen.jp/workshop/>

- 2022 年 11 月：NPO 法人さぶみの山のこども園 うしのしっぽ（島根県）、島根県津和野町立日原小学校（島根県）、臨済宗 妙心寺派 薬師山 林昌寺（愛知県）
- 2023 年 2 月：GALERIE SIMON ギャラリー志門（東京都）、三鷹古典サロン裕泉堂（東京都）
- 2023 年 3 月：ヒョウゲンアソビバ ～京都 四条（京都府）
- 2023 年 5 月：わかやまシュタイナー学園～和歌山 紀の川（和歌山県）

興福寺への取材に関するお問い合わせは

興福寺 担当 辻 明俊

電話番号：0742-22-77755 090-1130-9204

香り墨 Asuka の販売については国宝館ショップまで 0742-22-5212

錦光園への取材に関するお問い合わせは

錦光園 長野 睦

電話番号：0742-22-3319 090-4561-8191